

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和3年(2021年)9月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2021 **10** 通算197号
月号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

「友達の輪～Relayトーク 第13弾」	
医師会病院の思い出……………	P1
肺癌診療の進歩……………	P2
退任挨拶……………	P2
「患者紹介電話相談」開設から3年の軌跡…	P3
G8に参加して……………	P3
ポリファーマシーを知っていますか?…	P4

「友達の輪～Relayトーク 第13弾」 医師会病院の思い出

すえふじ医院 ^{すえふじ} 末藤 ^{ひさかず} 久和



両親と祖父母に抱かれて

豊田徳明先生よりご紹介いただきました末藤と申します。祖父の代より江津湖の近くで開業しており、豊田先生と同じ東2部ですが、この区分けも残りわずかです。

私自身は、残念ながら医師会病院で勤務した経験がありません。医師会病院の思い出といえば、私にとっては祖父が初代院長をさせて

いただいた病院であるということです。スタートは今から40年も前の事であり、先々代の事となると記憶も曖昧なので、当時を知るために事務局にお願いして、開設5周年の記念誌を見せていただきました。記念誌には、祖父だけでなく7月号に御寄稿いただいた柏木明先生をはじめ当時の執行部の先生方の若々しい写真や文章があり興味深い貴重な資料でした。記録によると医師会病院の開設は昭和56年のことで、中学生であった自分には、祖父は帰りが遅いとか記憶がありませんでしたが、今の園田寛会長の会議に次ぐ会議を知るに、こういう事だったのかと改めて会長職の多忙さを理解した次第です。

そんな祖父は、市医師会長の職を昭和61年までさせていただきました。そして昭和62年には院長職も柏木会長にバトンタッチし、その2年後に自宅で心筋梗塞を発症いたしました。当時、医学生であった私は、父の小児科クリニックに置いてあった心電計

を見様見真似で使ってみて心筋梗塞を疑い、救急車で搬送してもらったのが医師会病院だったのです。当時は循環器科がなかったため熊本中央病院に転送していただき、再かん流療法の劇的な効果を患者家族として体験しました。その経験がきっかけとなり、私は循環器内科の道を進む事となります(美談でしよ)。

晩年の祖父は何度も誤嚥性肺炎を繰り返し、平成12年の秋に医師会病院に入院した際には、酸素が外せなくなりました。そして、看取りの直前に新館の落成式に車椅子で参列させていただきました。その夜から意識がなくなり数日後に他界しました。自分が開設に関わった医師会病院で最後を迎えられて満足した人生であったと思います。

さて、現在の医師会病院は本館の建て替えを控えておりますが、私も建設委員の一人として参加させていただいております。また、建設委員会には循環器内科の後輩である平井信孝先生が新病院のスペックを綿密に考えておられ、とても頼もしく思います。また、医師会病院には運営委員としても10年ほど関わらせていただいておりますが、執行部の先生方、院長をはじめ現場のスタッフの皆さんのたゆまぬ努力によって、この病院が常に発展し続けている事に感銘をうけています。今後も色々な課題があると思いますが、私も医師会員の末席を汚す者として、医師会病院の発展に少しでもお役に立てればと思っております。さて、今回のRelay Talkは、循環器内科の後輩で東2部(笑)仲間の庄野信先生です。では、来月もまた見てくれるかな? いいとも～懐

膵癌診療の進歩

～手術できるできないの分かれ目～

外科医長 **岡部 弘尚**
おかべ ひろひさ



膵癌診療において、手術ができるできないという分かれ目は患者さんにとって大きな分岐点であり、手術ができないという説明は本人・家族にとって受け入れがたい瞬間があります。これが劇的に変わる時代はまだまだ先だと思えますが、少しずつこの境界が

崩れていることと、その最新の知見をご紹介しますと思います。

2011年 New England Journal of Medicine に FOLFIRINOX の成績が報告され、奏効率が30%を超える有効な抗癌剤が登場したことにより、時代が変わっていくことになったと言えます。化学療法による著効例が散見されると、手術ができないと考えられる患者さんに、やっぱり手術ができるのではないかという「錯覚」が生じます。あえて錯覚ということばを用いますが、物理的に切除ができるということと、それがその患者さんの余命を本当に延長させるかどうかということは別で、その判断には長期間の成績や多くの症例を蓄積した情報が必要です。一定の年月が過ぎて、ようやくこのような長期成績が報告されるようになってきました。一般的に長期成績と結論づけるためには、治療後5年間を要するため、このような報告まで至るプロセスはどうしても年月が必要になることは仕方のないことだと思います。そのわかりやすい一つの報告をご紹介します。2018年の膵癌術前治療研究会で、鹿児島大学の新地先生らが報告された内容に、当時広島の会場で直接発表を聴講して非常に心に残りました。その内容が

最近ようやく Publish されました (Mataki et al. Cancers 2021)。398名の切除不能膵癌の患者さんに化学療法を行い、十分な経過観察ののち手術を行った症例を20例(5%)認めました。この20例は、腹膜播種を含めた遠隔転移や局所の進行癌など含まれますが、生存期間の中央値はなんと73.7ヶ月でした。この成績は当然一般的な切除可能膵癌を上回る成績で、非常に厳密な selection が存在することは間違いありませんが、大事なことは外科的な立場で、手術ができない症例に5%のこのようなチャンピオンケースが存在するというのを念頭において、化学療法を続けながら手術の機会をうかがい続けるということです。Selection の方法も非常に大事で、これは鹿児島大学の外科という診療体制から生まれた成績であり、決して全国的に同じようなことが見られるわけではないと思います。というのは、関東や関西などの都心部や、海外は特に分業化が進んでいるため、抗癌剤治療チームと手術チームは別であることが多く、化学療法=延命治療(積極的な治療というよりは、QOLを重視した治療)という概念でとらえられることが多いからです。ジェムザール+アブラキサソといった FOLFIRINOX に迫る有効な治療薬や、minority ではあるものの劇的な治療効果を示す可能性のある臓器横断型新薬(免疫チェックポイント阻害剤、PARP 阻害剤、NTRK 阻害剤)の登場を鑑みると、今後手術ができない→できるという人生の復活劇が見られる可能性は、日進月歩広がっているとと言えます。

今後このような膵癌診療の進歩を少しでも多くの患者さんに届けていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

退任挨拶

小児科 **米田 なるみ**
よねだ なるみ



今年度4月より半年間、小児科で勤めさせていただきました。熊本地域医療センターのように小児の救急車が多く来る病院で働いたことがなく、着任前は救急車を受けることができるか、子ども達を逆に危険な目にあわせてしまわないか、大変不安でした。実際に働いてみますと、先

生方や外来・病棟のスタッフ、事務の方々が支えて下さるお陰で充実した日々を送ることが出来ました。

6ヶ月間という短い間ではありましたが、大変お世話になりました。10月からは熊本大学病院のNICUに異動となります。環境も雰囲気も異なる場所への移動で不安な面がありますが、少しでも小児医療に貢献できるようこれからも精進してまいりますので、よろしくお願い致します。本当にありがとうございました。 * * * * *

「患者紹介電話相談」開設から3年の軌跡

たちばな きょうこ
外来師長 橋 恭子



平素より先生方には、ご支援ご協力を頂き感謝申し上げます。記念すべき年号改訂の年に開設致しました「患者紹介電話相談」は、9月で3年目を迎えました。病院理念にある「かかってよかった。紹介してよかった」の具現化に向け、先生方のお困りごとの解決や、紹介して頂いた患者さんの待ち時間短縮を目指しております。携帯するPHSの着信を今か今かと待ち望む日々です。

Covid-19の到来により、昨年4月、当院は診療制限という大きな危機に直面致しました。この出来事は、多くの患者さんや先生方の不安に繋がったことなのでしょう。しかし、Covid-19は、病院のあるべき姿を見直すきっかけを与えてくれました。いかなる有事に苛まれようとも、患者さんや先生方が安心して利用していただける病院でありたいと痛感いたしました。それから、職員が一丸となり、再び信頼を取り戻すべく感染防止対策の強化と、サービスの向上に邁進しております。

3年目を迎えた患者紹介電話相談は、延べ257件の相談を受け、88件が入院加療に繋がりました。

診療制限を機に一時的な相談件数の減少がありましたが、電話越しに頂く先生方の励ましの声により一層のご満足に繋がる対応を心がけて参りました。現在、医療情勢が大きく変化し、特に発熱を有する患者さんの受け入れが困難な状況にあります。電話相談の内訳も、肺炎疑いや不明熱の相談が増加しております。行動制限が強いられる今だからこそ、フレイル状態の患者さんや、うつ症状を呈する患者さんの紹介も多く寄せられるようになりました。診療科の選定に悩むご紹介もありますが、各診療科の医師が協力し合いながら、断らない病院であり続けることをモットーにしております。当院は、会員の先生方の共同利用施設として設立されました。その使命を果たすべく、この電話相談が、先生方のお困りごとを解決し、ご期待に沿うことができているのであれば光栄です。

いかなるご相談にも真摯に対応して参ります。どうぞお気軽にご連絡ください。また、緊急性の低いご紹介に関しては、後日の予約をお取りして、お待たせしない診療を目指しております。今後も、一人でも多くの患者さんに利用していただける病院を目指し、より一層「かかってよかった。紹介してよかった」と感じていただけるよう、丁寧な対応に努めて参ります。

G8に参加して

2021年8月25日、熊本市公的病院等地域連携協議会（G8）がWEB開催されました。

熊本市公的病院等地域連携協議会（G8）とは、熊本市公的病院等地域連携室間の情報共有と各医療機関との連携体制の充実促進を図る目的で2011年7月に創設され、くまもと森都総合病院、国立病院機構熊本医療センター、熊本市立熊本市市民病院、熊本赤十字病院、熊本中央病院、済生会熊本病院、熊本大学病院、そして熊本地域医療センターの8病院の地域医療担当部署で組織されています。

通年2回開催され熊本大学病院の山崎記念館にて、各病院がテーマを決めて発表を行っていましたが、コロナ禍のため約1年ぶりとなりました。

きむら よしひろ
地域医療連携室係長 木村 吉宏

本会は、熊本赤十字病院（担当病院）の司会進行で、熊本市市民病院・主席診療部長の橋本洋一郎先生の挨拶から始まり、6病院（熊本済生会病院、くまもと森都総合病院が欠席の為）での担当者の挨拶・施設紹介がメインとなりました。

当院は、地域医療連携室の「地域連携業務」、「検査事務業務」、「救急医療情報業務」の業務報告と、クオリティーマネジメントセンターの説明をいたしました。

コロナウイルス感染症も爆発的に猛威を振るうなか、他医療機関の皆様とより一層の連携を図り困難を乗り越えていかなければいけません。

今回、貴重な体験をさせてもらったことは、とても有意義で有難かったです。

ポリファーマシーを知っていますか？

薬剤部主任 ふかい 深井 やすひろ 靖大



平素は大変お世話になっております。薬剤部で主任をしております深井と申します。熊本地域医療センターだよりで薬剤部は2018年11月号で業務内容について、2019年12月号で教育体制について紹介させていただきました。

今回は「ポリファーマシー」のこと、そしてポリファーマシーと関連の深い薬剤総合評価調整加算、薬剤調整加算についてお話いたします。

ポリファーマシーとは薬の多剤併用のことで、単に服用する薬剤数が多いだけでなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服用過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態をいいます。

高齢になると、多くの薬を併用することが多くなります。高齢入院患者を対象とした薬剤数と薬物有害事象との関係を解析した報告では、6種類以上のお薬を服用している場合、薬物有害事象のリスクは増加すると言われています。

薬剤総合評価調整加算はポリファーマシー対策をすることが評価された加算となります。具体的に説明すると、入院前に6種類以上の定期内服薬が処方

され、当該処方の内容を総合的に評価した上で、当該処方の内容を変更し、薬剤指導を行った場合に算定できます。

さらに、退院時処方の定期内服薬が2種類以上減少し、その状態が4週間以上継続すると見込まれる場合、薬剤調整加算が追加算定されるという2段階構造となっています。

当院では一般病棟に病棟専任薬剤師が常駐し、全ての入院患者に対し持参薬の確認を行い、患者のために必要であれば医師に対し処方提案を行っています。

算定には多職種のカンファレンスを実施するなど、細かい条件もあり当院の算定件数はまだ少ないですが、加算に至らなくとも、ポリファーマシーに目を向けることは薬物有害事象の発現軽減や医療費削減にも有効であると思われます。

高齢者が定期内服薬を多剤併用で長期間服用している場合、必要以上の薬を漫然と服用していないか、本来病気を治すはずの薬が、逆に薬物有害事象を起こしていないか、薬剤師は処方最適化を提案し、医療の質向上に貢献できるよう取り組んでいきたいと考えています。

今後ともご指導ご助言いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2021年10月25日(月) 19:00~20:00

形式／ハイブリット方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加：ZOOM 会場参加：2階多目的ルーム

申し込み方法 (オンライン参加の場合) / kumamotochiiki@gmail.com

までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)

※会場参加を希望される方は、事前に申し込みください。人数制限によりご案内できない場合がございます。

※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

①症例報告

『SGLT2阻害剤使用の際の注意点 (仮)』

糖尿病代謝内科 笹原 誉之 医師

②特別講義

『急性腹症におけるとりあえず単純CTのススメ』
CC9：医療情報

放射線科 松川 哲也 医師

熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします！

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)
☎096-366-1323

編集後記

Y Relayトーク第13弾、末藤久和先生の前稿中の「祖父」(末藤栄先生)の「栄」の文字が、当院の親会会の栄の由来だそうです。建設委員会の本館の建て替えの話題に触れていただき勇気をいただきました。ありがとうございます。

K 先日、知り合いより生栗をいただきました。専用の皮むき器を使ったのですが、指にはまめが数個でき、肩こりに悩まされる始末。私の涙ぐましい努力は露知らず、家族は栗ご飯をパクパク。喜んでくれたから、よしとします！

H 最近たまに、某有名配達アプリで休日の昼食・夜食を注文していますが、ついに妻から怒られました。「ねー痩せる気あんの？」と。咄嗟に、「なんか食欲の秋に突入したみたい」と意味不明な言い訳をしてしまい、火に油を注いだ9月の出来事です。